

鉄鋼・非鉄金属

1. 評価対象企業（15 社）

日本製鉄、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属、日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWAホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	7	25
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	3	10
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	コーポレート・ガバナンス関連	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的情報開示	3	15
計		19	100

（注）評価項目の内容および配点は 50 頁参照

(2) 評価実施アナリストは 16 名（所属先 15 社）である。（51 頁参照）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」（49 頁）参照）

- ① 本年度は、評価分野全般において、内容変更、配点変更（内容変更を含む）または項目削除を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 69.9 点（昨年度 69.4 点）、総合評価点の標準偏差は 4.8 点（昨年度 3.6 点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（6 社：日本製鉄、神戸製鋼所、ジェイ エフ イー ホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼、日立金属）は 71.0 点（昨年度 68.7 点）と昨年度に比べ上昇した。一方、非鉄金属（9 社：日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWA ホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ）は 69.2 点（昨年度 69.8 点）となり昨年度と同水準であった。なお、本年度は、2014 年度以来、6 年ぶりに、鉄鋼が非鉄金属を上回った。
- ③ 5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 71%（昨年度 72%）、**説明会等**が 71%（昨年度 73%）、**フェア・ディスクロージャー**が 78%（昨年度 77%）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 65%（昨年度 64%）、**自主的情報開示**が 67%（昨年度 58%）となり、**自主的情報開示**が昨年度より改善した結果、分野間格差が縮小した。
- ④ 評価項目について見ると、全 19 項目中次の 3 項目（**フェア・ディスクロージャー**の 1 項目(a)、**説明会等**の 2 項目(b)、(c)）が平均得点率 80%以上となった。

(a) 「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか」（平均得点率 94%〔昨年度同率〕）（得点率（評価

点／配点（以下省略）：100%13社・50%2社）

- (b)「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか」（平均得点率 87%〔昨年度同率〕）（得点率：100%13社・0%2社）
- (c)「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 86%〕）（得点率：90%1社・85%4社・80%7社）

- ⑤ 一方、次の2項目（コーポレート・ガバナンス関連の1項目(d)、自主的情報開示の1項目(e)）は、平均得点率が最も低水準となった。ただし、(e)に関しては、この3年間で改善（+20ポイント）した。

- (d)「資本政策と株主還元策に関し十分な説明がされていますか」（平均得点率 62%〔昨年度 63%〕）（得点率：50%台8社）
- (e)「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか」（平均得点率 62%〔昨年度 54%、一昨年度 42%〕）（得点率：29%1社・33%1社）・（50%台4社）

- ⑥ 非財務情報関連の以下の項目（自主的情報開示の1項目）については、次のとおり、昨年度に比べ改善した。

- ・「統合報告書を開示していますか。その内容は、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していますか」（平均得点率 70%〔昨年度 61%〕）（得点率：80%台3社・70%台5社・60%台2社・50%台5社）

- ⑦ なお、当該評価期間については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、ディスクロージャー活動に各種の支障が生じていたが、決算説明会において今期ガイダンスへの新型コロナウイルス関連の影響を明記したり、オンライン決算説明会を実施するなどの取り組みを行った企業があったことは高く評価すべきと考える。

(2) 上位3企業の評価概要

第1位 日本製鉄（ディスクロージャー優良企業〔初受賞（注）〕、総合評価点 77.7 点〔昨年度比+8.1 点〕、昨年度第6位）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率（以下省略）79%）、自主的情報開示（85%）が第1位、コーポレート・ガバナンス関連が第2位（73%）、説明会等が同得点第2位（76%）、フェア・ディスクロージャーが第10位（78%）となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第1位）および順位の上昇（上昇幅第3位）につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）」が最も高く評価された。加えて、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していること、また、担当交代時に十分な引き継ぎがなされていること」および「経営トップが企業価値向上への意識を高め、決算説明会や統合報告書等において、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること、また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」も共に評価された。これらの結果、この分野において第1位の評価となった。なお、経営トップによる市場への発信が本格化し、トップマネジメントの考え方がクリアに伝わるようになったとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」、「インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、情報開示の後退がないこと」および「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」が共に評価された。一方、「部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていること」は同得点第8位（トップと24ポイント差）、「経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は同得点第10位（トップと16ポイント差）にとどまった。なお、説明資料が充実しており、工夫もみられる点を評価する声が寄せられた。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」が満点評価となった。また、「投資家にとって重要と判断される事項（例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等）の開示が、公平にかつ遅滞なく行われていること」も

最も高く評価された。一方、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」については同得点第 10 位となった。

- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていること」および「資本政策と株主還元策に関し十分な説明がされていること」が高い評価となった。これらの結果、この分野において第 2 位の評価となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していること」が最も高く評価された。これに関し、サステナビリティ説明会や大分製鉄所見学会等の実施に加え、決算説明会における注目トピックの資料の充実を評価する声が寄せられた。また、「E-mail を利用して公開情報の提供を行っていること」も最も高く評価されたことに加え、「統合報告書を開示していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」がトップと僅差であった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。

(注) 経営統合 (2012 年 10 月) 前の住友金属工業は過去 4 度受賞した。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位 丸一鋼管 (総合評価点 74.5 点 [昨年度比+4.6 点]、昨年度第 5 位)

- ① 同社は、説明会等 (79%)、コーポレート・ガバナンス関連 (77%) が第 1 位、経営陣の IR 姿勢等が第 2 位 (78%)、自主的情報開示が第 7 位 (67%)、フェア・ディスクロージャーが第 15 位 (58%) となった。昨年度に比べ、同得点率だったフェア・ディスクロージャーを除く 4 分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇 (上昇幅第 4 位) および順位の上昇 (上昇幅第 4 位) につながった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、決算説明会や統合報告書等において、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること、また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」および「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していること、また、担当交代時に十分な引き継ぎがなされていること」が共に最も高く評価された。一方、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること (十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等)」が同得点第 5 位となった。
- ③ **説明会等**においては、全 7 項目中次の 4 項目 (「決算説明会における会社側の説明が十分であること」、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、情報開示の後退がないこと」、「部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていること」および「経営分析に必要なかつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」) が共に最も高く評価された。また、「インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。なお、本決算および上半期決算説明会の資料の評価が高い一方、四半期決算説明会を求める声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「投資家にとって重要と判断される事項 (例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等) の開示が、公平にかつ遅滞なく行われていること」が最も高く評価された。一方、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」および「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」が共に低評価にとどまった。
- ⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策と株主還元策に関し十分な説明がされていること」が最も高く評価された。また、「コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされたこと」および「中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されたこと」が共に高く評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」が評価された。これに関し、東京工場の見学会を評価する声が寄せられた。なお、「統合報告書を開示していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」が同得点第 11 位、「E-mail を利用して公開情報の提供を行っていること」が第 14 位にとどまった。

第3位 ジェイ エフ イー ホールディングス（総合評価点 74.4 点〔昨年度比+5.7 点〕、昨年度第9位）

- ① 同社は、自主的情報開示が第2位（81%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第2位（86%）、説明会等が第4位（74%）、コーポレート・ガバナンス関連が同得点第6位（67%）、経営陣の IR 姿勢等が第7位（73%）となった。昨年度に比べ、同得点率の説明会等を除く4分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第3位）および順位の上昇（上昇幅第2位）につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門への経営資源の配分が充実していること（十分な人員配置、IR 部門への権限委譲、情報集積の支援等）」が評価された。加えて、「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していること、また、担当交代時に十分な引き継ぎがなされていること」が第4位となった。一方、「経営トップが企業価値向上への意識を高め、決算説明会や統合報告書等において、投資家にとって有意義なメッセージを発信していること、また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていること」が同得点第7位（トップと11ポイント差）であった。
- ③ 説明会等においては、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」が高い評価となった。さらに、「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていること、また、情報開示の後退がないこと」および「決算説明会における会社側の説明が十分であること」も共に評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」および「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」が共に満点評価となった。
- ⑤ コーポレート・ガバナンス関連においては、「中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていること」がトップと14ポイント差の第8位となった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「E-mail を利用して公開情報の提供を行っていること」が最も高い評価となった。また、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」も評価された。これに関し、西日本製鉄所や J F E エンジニアリングの見学会を評価する声が寄せられた。さらに、「統合報告書を開示していること、その内容が、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していること」が第3位となった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ U A C J（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 72.6 点〔昨年度比+5.9 点、一昨年度比+13.4 点〕、第5位〔昨年度第12位、一昨年度第14位〕）

- ① 同社は、説明会等（76%）、フェア・ディスクロージャー（86%）が同得点第2位、経営陣の IR 姿勢等が同得点第4位（73%）、コーポレート・ガバナンス関連が第5位（68%）、自主的情報開示が第10位（63%）となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点の上昇（上昇幅第2位）および順位の上昇（上昇幅第1位）につながった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、構造改革説明会を開催し、市場との関わり方にさらに積極性がみられ、トップのメッセージが分かりやすいとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていること」が最も高く評価された。また、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」、「インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていること」、「収益および財務分析に必要な情報が十分に記載されていること、情報開示の後退がないこと」および「経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」も共に評価された。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「説明会または電話会議のリプレイが、電話やウェブキャストで視聴等が可能であること、また、説明会の議事録が提供されていること」および「外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていること」が共に満点評価となった。
- ⑤ 自主的情報開示においては、福井製造所やタイ子会社の見学会に加え、構造改革説明会を評価する声が寄せられた。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以上

2020年度 ディスクロージャリー評価比較総括表（鉄鋼・非鉄金属）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス 評価項目3 (配点30点)		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示 評価項目7 (配点25点)		3. フェア・ディスク ロージャー 評価項目3 (配点10点)		4. コーポレート・ガバナ ンスに関連する情報 の開示 評価項目3 (配点20点)		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示 評価項目3 (配点15点)		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5401 日本製鉄	77.7	23.6	1	19.0	2	7.8	10	14.5	2	12.8	1	6
2	5463 丸一鋼管	74.5	23.4	2	19.8	1	5.8	15	15.4	1	10.1	7	5
3	5411 ジェイ エフ イー ホールディングス	74.4	21.9	7	18.4	4	8.6	2	13.4	6	12.1	2	9
4	5713 住友金属鉱山	74.3	22.0	4	17.4	11	8.7	1	14.3	3	11.9	3	1
5	5741 UACJ	72.6	22.0	4	19.0	2	8.6	2	13.5	5	9.5	10	12
6	5706 三井金属鉱業	71.6	20.6	10	18.1	6	8.6	2	13.2	8	11.1	5	8
7	5714 DOWAホールディングス	71.5	22.5	3	18.3	5	8.5	5	12.2	10	10.0	8	3
8	5801 古河電気工業	71.1	22.0	4	17.7	9	8.5	5	13.7	4	9.2	11	2
9	5486 日立金属	69.0	20.5	12	18.0	7	7.3	11	12.1	11	11.1	5	3
9	5802 住友電気工業	69.0	21.1	8	18.0	7	8.4	7	13.4	6	8.1	13	7
11	5711 三菱マテリアル	68.2	20.6	10	16.2	14	8.1	9	12.1	11	11.2	4	10
12	5406 神戸製鋼所	67.5	19.9	13	17.3	12	8.4	7	12.1	11	9.8	9	11
13	5703 日本軽金属ホールディングス	64.6	21.1	8	15.5	15	6.0	14	13.0	9	9.0	12	13
14	5471 大同特殊鋼	62.7	19.7	14	17.6	10	7.1	12	11.4	15	6.9	15	15
15	5803 フジクラ	59.9	18.1	15	16.5	13	6.2	13	11.7	14	7.4	14	13
	評価対象企業評価平均点	69.92	21.27		17.78		7.78		13.07		10.02		

2020年度評価項目および配点(鉄鋼・非鉄金属)
【評価対象期間:2019年7月～2020年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス (30点)	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営トップが企業価値への意識を高め、決算説明会や統合報告書等において、投資家にとって有意義なメッセージを発信し、また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。	10
②IR部門への経営資源の配分が充実していますか。(十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援等)	10
(2)IR部門の機能	
・IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供していますか。また、担当交代時に十分な引き継ぎがなされていますか。	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示 (25点)	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	6
②インタビューにおいて説明会資料等の数値や文言の理解を深めるような十分な説明がなされていますか。	4
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
①収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されていますか。情報開示の後退はありませんか。	6
②部門別あるいは主要子会社別等の実績および見通しのデータが、投資家の関心に即して十分に記載されていますか。	3
③経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	3
(3)四半期情報開示	
①四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
②四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはテレフォン・カンファレンスを開催していますか。 [開催あり:1点 開催なし:0点]	1
3. フェア・ディスクロージャー (10点)	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項(例えば、自社および重要な子会社・関連会社の業績変動、新製品・新技術、合併・提携、リスク情報等)の開示は、公平にかつ遅滞なく行われていますか。	6
(2)説明会または電話会議のリプレイ	
・説明会または電話会議のリプレイは、電話やウェブキャストで視聴等が可能ですか。また、説明会の議事録が提供されていますか。	2
(3)外国人投資家への情報提供	
・外国人投資家にも配慮した情報提供に努めていますか。	2
4. コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 (20点)	配点
(1)コーポレートガバナンス・コード	
・コーポレートガバナンス・コードの各項目について、進捗状況を含め十分に説明がなされていますか。	4
(2)目標とする経営指標等	
・中・長期の経営計画またはビジョンを公表し、その後の進捗状況・達成のための具体的方策が、十分に説明されていますか。	8
(3)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策と株主還元策に関し十分な説明がされていますか。	8
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示 (15点)	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。 [過去1年間を目安に評価]	7
②統合報告書を開示していますか。その内容は、中長期的な企業価値の向上につながる非財務情報を開示していますか。	7
③E-mailを利用して公開情報の提供を行っていますか。	1

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部 会 長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	マツコーリーキャピタル証券会社
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	竹元 宏和	アセットマネジメント One
	松本 裕司	野村證券

評価実施アナリスト(16名)

井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	竹間 雅子	S O M P Oアセットマネジメント
尾崎 慎一郎	大和証券	中村 宏司	QUICK
五老 晴信	マツコーリーキャピタル証券会社	野田 健介	ニッセイ アセット マネジメント
崎村 英治	野村アセットマネジメント	平井 克典	東京海上アセットマネジメント
重岡 絵美里	大和証券	松本 裕司	野村證券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	望陀 謙智	明治安田アセットマネジメント
竹元 宏和	アセットマネジメント One	八木 啓行	富国生命投資顧問
田中 彰	三菱 UFJ 信託銀行	山口 敦	SMBC 日興証券

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。